



専務取締役
宮下真一郎 氏

執行役員松本工場長
下見正明 氏

松本工場部長
梅村博和 氏

管理本部副本部長
古畑 修 氏

現在、企業におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）は極めて重要なテーマとなっています。今回はDXとFAを同時に推進するため内製化を重視し、新たな分野の事業の芽を生み出している株式会社日邦バルブ様にDX推進の取り組みをお聞きました。

1. 新しい事にチャレンジされる中での、DXの取り組みについてお話をお聞かせいただけますか。

宮下専務 工場のFAがメインで、梅村が中心となって進めています。その一環でDX的な取り組みも行っています。スマートバルブについては新聞発表もしましたが、6月から試験設置を行います。データ収集、製品改良、等を行って量産化を目指したいと思っています。動き出せばDXの一環として期待しています。

2. DXの取り組みを始めたきっかけについて教えてください。

下見工場長 直接のきっかけは働き方改革です。今までは就業時間外に行っていた作業や簡単な会議も就業時間内に行う必要が出てきました。残業を減らし、効率化するためには無駄な作業を減らし、DXの力を借りることが重要です。また、属人化した作業を標準化し、効率化するためにもDXは最適でした。社長の新しいことに挑戦する風土を作りたいという思いも大きな要因です。新しい技術を取り入れて解決する取り組みを始めました。

宮下専務 スマートバルブも社長のアイデアで、未来商品として開発していましたが、展示会に於いて共同開発のお話があり、開発が急速に進みました。

3. DX成功の鍵はトップの決意とされています。社長が先頭で進めている、その詳細を教えてください。

下見工場長 会社の大きな目標として自動化と効率化があります。具体的な導入事例としては、機械を使った作業効率化のためにDXを浸透させることから始めました。全従業員が協力して取り組むために、まずはニーズを掘り起こし、情報を共有化することが重要でした。Microsoft OneNoteを使って情報の共有化を進め、その後、業務効率化アプリを自分たちで作成し、現場の改善を図っています。情報の共有化と業務効率化アプリの利用で問題解決を進めています。また、工場の自動化も進めています。今までは外注していた高額な自動化設備を内製化することで、コストを抑えつつ自動化を推進しています。加工品の自動脱着装置や製品の自動箱詰め機、工場内の自動搬送ロボットなどを内製化し、業務効率化と作業の自動化を両輪で進めています。

4. 業務効率化アプリについてですが、それは何か特定のツールを使っているのですか？

下見工場長 市販のkintoneを導入しています。3ヶ月前から始めて、全社員でアプリを開発しようと取り組んでいます。まだ初期段階ですが、これから全社員に展開し、助走期間を経て本格的に展開する予定です。社内の成功事例を積み上げ、社員全体で使えるように考えています。

5. 自動化設備の内製化についてもお聞きしますが、ハードウェアも含めて全て内製化しているのですか？

下見工場長 ハードウェアもソフトウェアも内製化しています。例えばAGV（無人搬送車）も内製化し工場内を回っています。他にも既存加工機に後付け出来るように、ロボットアームを活用した自動化設備も内製化しています。ばら積みピッキングなどの人が行っていた作業を自動化し、現行の加工機に取り付け出来る事がポイントになります。社内で成功後、外販する事も視野に活動しています。

梅村部長 内製化を進める上で困難は毎日ありますが、開発する楽しさがあれば乗り越えられます。仲間と一緒にやっているの、一人ではなくチームで取り組んでいます。



6. 若手プロジェクトメンバーは理解を得ながら進めているのですか？

梅村部長 できない人もいれば、できる人もいます。短期間の結果を求めるのではなく、若手が成長し、次世代の会社を担ってくれることを期待しています。

7. プロジェクトを作り、全員で取り組むというイメージですが、メンバーはどのように選ばれていますか？

宮下専務 メンバーは3年ほど前からFAの自動化を目的として選ばれ、現在も取り組んでいます。最初は苦労しましたが、今では成功しつつあります。レイアウト変更等の改善も、松本ものづくり産業支援センターに教えていただきながら進めています。

8. 生成AIの活用はどのような状況ですか？

下見工場長 会議の議事録作成にOneNoteを使い、音声を変換し、その後生成AIで精度を高めています。これにより、議事録作成の時間を短縮しています。100%完成状態とはなりませんが、70%ぐらいできているので、残りは人が見ますが、ゼロから作るより70%できたものを人が見るので、時間短縮になります。

9. その他の今後の計画について教えてください。



信州の名工
三澤和雄 氏

宮下専務 3種類の鋳造設備と鋳造技術、加工技術、柔軟な対応力を活用したサブブランド「銅屋」（あかがねや）の新しい取り組みとしてキャンプ用品の製造・販売も始めています。クラウドファンディングでの販売も好評でした。弊社

には「信州の名工」と言われる卓越した技術を持った社員がいます。DXによるビジネスモデル変革、競争上の優位性確立を目指すだけでなく、名工の技が発揮されコラボレーションすることで新たな事業を考えていきます。

10. DXを進める上での成功要因について教えてください。

梅村部長 諦めないこと、妥協しないことが重要です。毎日苦労して立ち上がり続けることが成功の鍵です。

下見工場長 組織の変更や関係者への説明も重要です。また、予算や時間を確保し、役員や上司の理解と支援が必要です。そうした支援があって、現在の状況に至っています。

宮下専務 技術的なひらめきも大きな要因です。「銅屋」も社長のひらめきとアイデアから生まれました。DX、FAを推進成功させるのも会社のモットーである「より良い製品を・より安く・よりタイムリーに」を目指すための手段になります。



株式会社 日邦バルブ (NIPPO VALVE CO., LTD.)

所在地：長野県松本市笹賀 3046番地

代表者：代表取締役社長 重野 啓司

事業内容：給水装置、水道用バルブ、継手などの

設計・製造・販売

素形材、治工具、型、アウトドア用品の

設計・製造・販売

URL：<https://www.nippov.co.jp/>

取り組み：

・ISO9001：2015／ISO14001：2015 全社

・JISHA 方式適格 OSHMS 本社・松本工場・北海道工場